

令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

資料 1 - 2 - 1

団体名(所管課名) 特定非営利活動法人たねの会(さいたま市子ども家庭総合センター総務課・さいたま市都市局都市公園課)

事業名 移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！
2年目

事業の目的

- (1) 移動型プレイパークを開催することで、子どもたちがのびのび遊べる機会を広く提供するとともに、プレイパークの認知を広げ、地域で子どもたちを見守り合う大人の輪を広げること。
 (2) 座談会を開催し、子どもにとっての遊びの環境づくりの大切さについて考える機会や、そのための手法について知恵を出し合う機会を提供し、地域で活動できる人を増やすこと。
 (3) 検討会を開催し、さいたま市において、子どもたちが豊かに遊び育つ環境づくりを広げ、継続していくための協働のあり方やプレイワーカーの育成等、必要な仕組みについて検討すること。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分できた	概ねできた	充分ではなかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			2年目ということもあり、事業の目的・目標は共有できていたと思われる。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 <small>(成果: 協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)</small>		○		目標は達成したと思うが、成果として、次年度以降の継続に現時点でつなげられていないところが課題。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。	○			参加者と話す機会を多く持ったり、関わってもらう場面を意識的につくることができたため。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 <small>(良い効果: 互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)</small>	○			実施におけるアドバイスをいただいたり、団体のノウハウを共有することができた。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。		○		1年目ほどの細かい情報交換はせずに実施してしまったように思う。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			開催場所の各地の支援団体への連絡や、来園者への声掛けなどを1年目より力を入れて行った。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	この2年間、マッチングファンド事業として、協働で移動型プレイパークを開催できたことで、当会だけでは届かなかった場所、人へ、遊ぶこと、遊び場づくりの楽しさを届けることができた。多くの方からこのような場が必要だ、継続してほしい、協力はしたい、という声をいただきながら、今後の予算の確保がない中で、地域の人に開催を引き継ぐということが難しく、マッチングファンド事業後の事業展開についても連携して考えていただけるようなサポートもあればありがたいと思う。				

令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

団体名(所管課名) 特定非営利活動法人たねの会(子ども家庭総合センター総務課、都市公園課)

事業名

移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！
2年目

事業の目的 子どもたちがのびのび遊べるまちづくり並びに子どもたちの居場所づくり及び健全な育成

事業の目標

- (1) 移動型プレイパークを開催することで、子どもたちがのびのび遊べる機会を広く提供するとともに、プレイパークの認知を広げ、地域で子どもたちを見守り合う大人の輪を広げること。
- (2) 座談会を開催し、子どもにとっての遊びの環境づくりの大切さについて考える機会や、そのための手法について知恵を出し合う機会を提供し、地域で活動できる人を増やすこと。
- (3) 検討会を開催し、さいたま市において、子どもたちが豊かに遊び育つ環境づくりを広げ、継続していくための協働のあり方やプレイワーカーの育成等、必要な仕組みについて検討すること。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分 できた	概ね できた	充分では なかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			令和4年度に引き続いての事業実施であり、両者、認識を共有したうえで目的・目標を設定することができた。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 (成果:協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)	○			協定書に設定した目標を達成することができた。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。	○			公園周辺の自治会、小学校のPTA、民生委員の方にも参加していただき、交流の機会をつくることができた。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 (良い効果:互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)	○			市報の活用により、より多くの市民の方に周知することができた。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			検討会の開催により、市職員においても、事業に関する専門的知識を習得することができた。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			公園周辺の自治会、民生委員、小学校PTAの方への声かけや座談会の実施を通して、今後の連携について考えてもらうきっかけを作ることができた。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	団体のHP等による広報だけでなく、市報や市HPを活用したことで、より多くの方々に事業を周知することができた。				

令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

団体名(所管課名) 特定非営利活動法人たねの会(子ども家庭総合センター総務課、都市公園課) 事業名 移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！
2年目

事業の目的 子どもたちがのびのび遊べるまちづくり並びに子どもたちの居場所づくり及び健全な育成

事業の目標 (1) 移動型プレイパークを開催することで、子どもたちがのびのび遊べる機会を広く提供するとともに、プレイパークの認知を広げ、地域で子どもたちを見守り合う大人の輪を広げること。
(2) 座談会を開催し、子どもにとっての遊びの環境づくりの大切さについて考える機会や、そのための手法について知恵を出し合う機会を提供し、地域で活動できる人を増やすこと。
(3) 検討会を開催し、さいたま市において、子どもたちが豊かに遊び育つ環境づくりを広げ、継続していくための協働のあり方やプレイワーカーの育成等、必要な仕組みについて検討すること。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分 できた	概ね できた	充分では なかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			令和4年度に続けての実施で、3者の役割・目的等が明確となり、目的・目標を共有・設定することができた。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 (成果:協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)	○			移動型プレイパークを開催し、多くの人に参加してもらうことで、地域コミュニティの活性化に寄与した。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。	○			移動型プレイパークを開催し、多くの人に参加してもらうことで、地域コミュニティの活性化に寄与した。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 (良い効果:互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)	○			移動型プレイパークの開催を通じて、地域コミュニティの活性化に寄与するとともに、改めてプレイパークの効果・役割を再認識した。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			プレイパークの実施報告等、随時情報共有を図り実施した。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			昨年度と同じ3公園で移動型プレイパークを開催し、自治会長をはじめ、地域の方々と連携して事業を実施することができた。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	団体のHP等による広報だけでなく、市報や市HPを活用したことで、より多くの方々に事業を周知することができた。				

様式第7号 (第11条関係)

令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成金実績報告書

令和6年3月28日

(あて先)

さいたま市長

所在地 さいたま市岩槻区表慈恩寺 1374-24

団体名 特定非営利活動法人たねの会

代表者氏名 佐藤 美和

令和5年6月9日付け市市市協第5-23号で交付決定の通知を受けた令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成事業(一般助成事業・団体希望助成事業)が完了したので、さいたま市市民活動及び協働の推進助成金交付要綱第11条の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|-----------|--------------------|
| 1 交付決定額 | <u>金 723,000 円</u> |
| 2 精算額 | <u>金 686,026 円</u> |
| 3 事業実施報告書 | |
| 4 事業収支計算書 | |
| 5 添付書類 | |

(1) 支出を証する書類

(2) 事業の成果物、写真、その他事業に関する資料



令和5年度マッチングファンド事業実施報告書

団体名	特定非営利活動法人たねの会
-----	---------------

事業名称	移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！2年目
実施期間	令和5年5月～令和6年3月
総事業費	914,702円（内訳は別添事業収支計算書参照）
内助成金交付申請額	686,026円
事業の目的	<p>*計画書の「1現状における課題と事業の目的」（この事業は何を目的に設定しましたか？）の記載事項を転記してください</p> <p>本来、子どもにとって「遊び」とは自らの可能性を広げていくために自然に備わっている生きる力であり、自由に遊べる環境（自らの力を試せる場所）や大人のサポート（安心感）があれば、困難があっても自らの力に気づき、たくましく生きていくことができる。それは子育てや生活、仕事に追われ余裕のなくなっている大人にとっても同じであり、コロナ禍における今こそ安心してつながれる地域での取り組みが必要である。そこで、そのような地域での取り組み、居場所づくりのきっかけとなるよう、市内各地で移動型のプレイパークを開催し、地域で子どもたちがのびのびと遊べる環境づくりにおけるモデル的な取り組みとなることを目的とした。また、プレイパーク以外にも座談会や検討会を開催し、さいたま市におけるプレイパーク事業の望ましい展開の仕方についての検討をしていくとともに、チラシの配布やアンケートを積極的に行うことで市民や自治会、他団体の方々などの意見や協力を得られるようにし、地域における遊び場づくりのスタートアップとしていきたい。</p>
事業の具体的な内容	<p>いつ 第2・第4水曜日、第2土曜日、他</p> <p>どこで 市内公園・公共施設</p> <p>だれに 乳幼児親子～小中高生、地域の方、興味のある方なら誰でも</p> <p>なにを (1)移動型プレイパーク (2)座談会 (3)プレイパーク事業検討会</p>
事業の実績	<p>どうした (1)移動型プレイパーク・・・市内公園3か所において、誰でも自由に遊べるプレイパークを開催した 具体的な遊びの例：昔遊び（けん玉、ベーゴマ、コマ、お手玉等）・絵の具遊び・シャボン玉・ままごと 空き箱やダンボールを使った工作・基地づくり・廃材を使った木工・水遊び・泥遊び・鬼ごっこ他 子どもの発想で自由に遊びが展開できるようにした。</p> <p>(2)座談会の開催・・・プレイパーク開催場所の地域における以下の3会場にご協力いただき、「新聞紙であそぼう」を開催しながら、移動型プレイパークの周知を行わせていただいた。（地域との連携の可能性を探る） ①子育て支援センターきた ②プラザ中央自治会 ③岩槻児童センター</p> <p>(3)プレイパーク事業検討会・・・移動型プレイパークの実施状況・成果について報告するとともに、今後のさいたま市内での展開についての意見交換を行う機会とした。</p>
	（詳細な内容）別紙のとおり
	成果
	*事業の結果を表す数値を記載ください（例：参加人数等）。
	【移動型プレイパーク 参加者総数】 乳幼児：476名 小学生：142名 中学生：11名 大人：430名 合計：1059名 【座談会】①親子17組 ②10名 ③親子12組 【検討会】11名

	<p>効果</p> <p>* 事業を実施することで、地域や市民にどのような良い結果をもたらしたか記載ください。</p> <p>移動型プレイパークを2年連続で同じ地域・同じ公園で開催できたことによって、続けて遊びに来てくれたり協力してくださる方々とのつながり・信頼を深めることができ、より子どもたちがのびのび遊べる場づくりをすることができた。また、大人同士のつながり、交流の場としても機能し、子どもをまんなかにした地域づくりの手法について提案することができた。</p>
事業の評価	<p>* 事業実施にあたって、課題となった点、工夫した点、良かった点、苦労した点等、評価を記載ください。</p> <p>総合的な参加人数でいうと、昨年度より減少してしまいましたが、地域の方との関係をより丁寧に進めることができました。お客さんとしてではなく、スタッフ側の視点で遊び場づくりについて考えたり協力してくれたりする方はとても増えたが、次年度以降の継続にあたって、主体となって開催してくれる方を探している旨を積極的に呼びかけてみたが、運営面や危険管理、資金、時間的拘束などの面で地域の方たちだけで継続していくにはハードルがあるように感じるようで、もう1歩、研修や資金のサポートなどを継続していく必要があるのではないかと感じた。</p>
今後の展開	<p>* この事業は、次年度以降どんな事業展開を考えていますか？</p> <p>* 翌年度以降の継続性、協働や自立事業への見込みなどについて記入してください。</p> <p>プレイパーク事業検討会でも提案させてもらったように、各地域でプレイパークが継続して開かれる状態になるためには、その支援のしくみを充実させていく必要があると考える。横浜市の「プレーパーク運営支援要綱」のようなものを策定し、一定の研修を受けた者が〇名いれば、プレーパークを開催することができる」などのような基準のもと、研修を充実させ、それらの方に倉庫や物品の貸し出し、資金面のサポート、プレイワーカーの派遣などのサポートが入るしくみができることが望まれる。団体として継続していくにも、資金面（受益者である子どもたちから参加費を取ることができない）や人材面（コーディネイトや事務連絡、地域や公園との連携等に係る労力）を考えると、行政支援なしに継続するには非常に難しい事業であるため、今後はさいたま市の施策の中に取り入れていただき、連携しながら展開していくことが必要ではないかと考える。</p>

※別途、報告冊子作成にて詳細を報告しています。



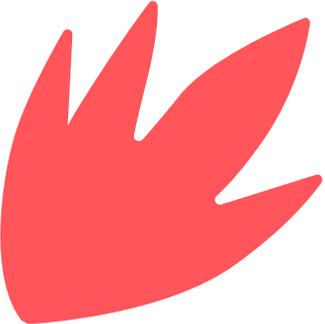
令和5年度マッチングファンド一般助成助成事業



**プレイパークでのびのび
遊べるまちをつくろう！
2年目 報告書**



特定非営利活動法人たねの会

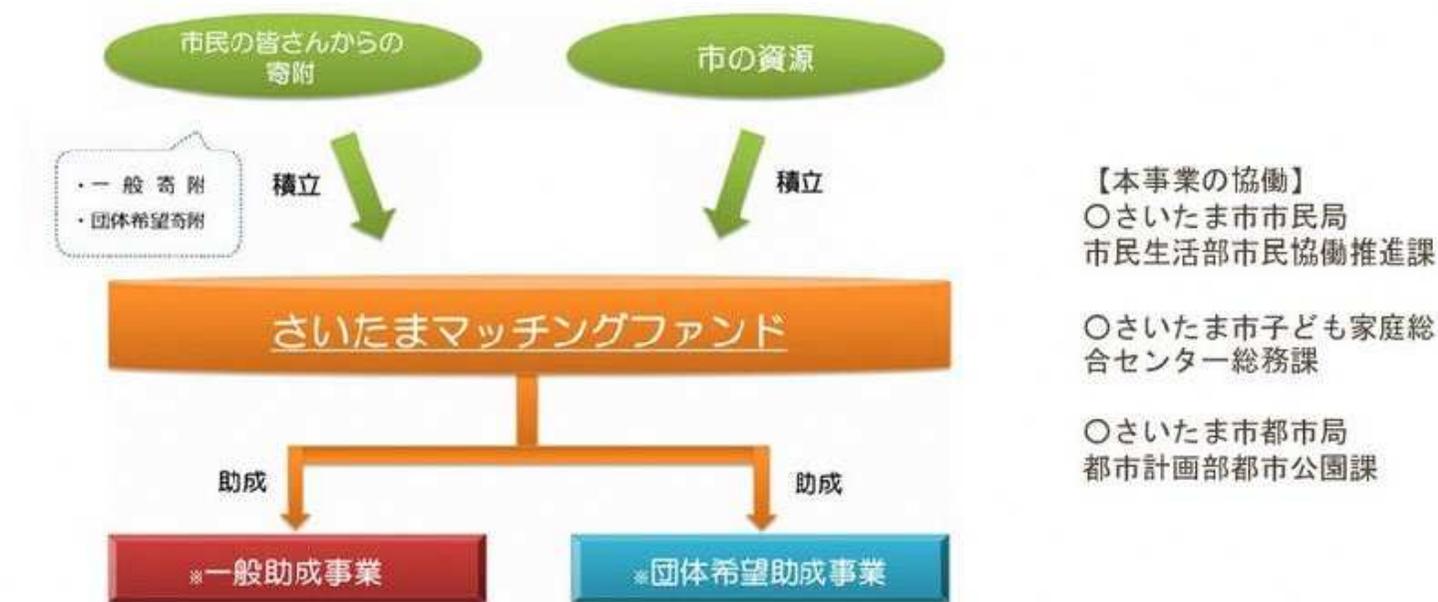


	本事業の説明	1
子どもの頃どんな遊びが 楽しかったですか？	「プレイパーク」とは	2
キラキラ・ワクワクした瞬間を 覚えていますか？	埼玉県内のプレイパーク	4
夢中になったり けんかしたり 失敗したり「やったあ！」があったり	「たねの会」のあゆみ	5
そんなかけがえのない瞬間は きっと一生の宝物。	本事業の概要	6
今子どもたちには 本気で遊んで泣いて笑える そんな場所が必要です。	(1)座談会の開催	7
やってみたい気持ちは生きる源。	(2)移動型プレイパークの開催	8
子どもたちがのびのびと 遊び育つ社会のために 私たち大人にできること 一緒に考えてみませんか？	①北区・番場公園	9
	②西区・プラザ中央公園	11
	③岩槻区・岩槻城址公園	14
	(3)プレイパーク事業検討会	17
	今後に向けての提案	22

本事業の説明

本事業は、令和5年度さいたまマッチングファンド一般助成事業に採択いただき、実施いたしました。昨年度採択いただいた「移動型プレーパークでのびのび遊べるまちをつくろう！」事業をふまえた2年目の事業になります。特定非営利活動法人たねの会の提案の元、以下の3課と協働で実施いたしました。

令和5年度マッチングファンド一般助成事業 『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう2年目』



※一般助成事業とは、市民活動団体が、市と協働して地域課題解決のために行う事業に対して交付される助成金制度のことで、一般寄附が活用されます。

「プレイパーク」とは 1943年デンマークで始まった「エンドラップ廃材遊び場」を起源に、ヨーロッパ各地に広がりました。日本では1970年代に世田谷区でスタートし、現在日本各地で約500の団体が取り組んでいる活動で「冒険遊び場づくり」と言われています。

世界で最初の冒険遊び場「エンドラップ廃材遊び場」

1943年年第2次世界大戦中 コペンハーゲン

- デンマークの造園家ソーレンセン教授
こぎれいな遊び場よりも、ガラクタのころがっている空き地や資材置き場で子どもたちが大喜びで遊んでいる

エンドラップからイギリスへ

1945年（第2次世界大戦後）ロンドン

- イギリスの造園家アレン卿夫人
エンドラップの廃材遊び場に深く感銘を受けその思想を持ち帰り、ロンドンの爆撃跡地に冒険遊び場をつくった。
- 1950～70年代を中心に、スウェーデン、スイス、ドイツ、フランス、イタリア、アメリカ、オーストラリアにも。
（現在、ヨーロッパ全体で1,000カ所程度の冒険遊び場）



日本で最初の冒険遊び場 1970年代 世田谷区

- 大村虔一・璋子夫妻
1979年 常設の「羽根木プレイパーク」誕生
（日本で初めての有給プレーリーダー天野秀昭さん）

1998年	57団体
2000年	95団体
2004年	192団体
2005年	214団体
2007年	233団体
2010年	271団体
2013年	399団体
2016年	416団体
2020年	458団体

「NPO法人日本冒険遊び場づくり協会」調べより作成

「プレイパーク」とは

プレイパークは「プレーパーク」「冒険遊び場」とも言われ、日本では「NPO法人日本冒険遊び場づくり協会」より以下の定義が出されています。

「冒険遊び場は、すべての子どもが自由に遊ぶことを保障する場所であり、子どもは遊ぶことで自ら育つという認識のもと、子どもと地域と共につくり続けていく、屋外の遊び場である」(2021年 日本冒険遊び場づくり協会)



自由に使える素材や道具・遊具のある環境をつくり、子どもたちが自分の実感・選択で発展させたり変更を加えたりして自由に遊べるようにしています。

埼玉県内のプレイパーク

2023年「埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会」調べでは、埼玉県内で25以上の団体がプレイパークの活動を行っています。



冒険遊び場づくりとは

「もっとのびのびと遊べる場所を」と願った人が、自分たちの地域に手づくりで遊び場をつくっていく活動です。北欧の「廃材遊び場」が起源ですが、日本には週5日以上開催している常設のプレイパークが全国にあります。

たき火、穴掘り、木登り、水遊び、その他、公園では普段禁止されてしまうような遊びも、地域住民や行政の協力で可能な限りできるようにしています。遊び場には、子ども自身がやってみたくて自分の実感で選択できるような環境をつくり、必要に応じて手助けしてくれる大人(プレーリーダーor遊び場スタッフ)がいます。

子育て支援の場として

親にとっても、子どもが思い切り遊べず、常に禁止ばかりしなければいけないのは苦しいこと。子どもの遊びや成長をゆったりと見守りながらおしゃべりしたり、いろいろな人の中で子どもが育っている場づくりは、子育て支援にもつながっています。

プレーリーダーとは

冒険遊び場づくりにかかわる専門職です。子どもが生き生きと遊べるよう、子どもの目線に立ち、環境づくりや働きかけを行います。子どもたちが安心して遊べるよう配慮し、遊具の点検やケガやトラブルにも対応します。



埼玉県内で冒険遊び場づくりに取り組んでいる団体 (2023年4月現在)



1 社会福祉法人わらしべ会		2 プレイパークはんのう EGAO		3 小豆野町子どもの遊び場推進協議会		4 久喜市に冒険遊び場をつくる会		5 森と子育てのつどいプロジェクト	
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 熊谷市内 市報にてお知らせ ● 不定期 ☎ 048-588-7970 		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鳩場公園 (飯能市緑町 9) ● 毎月第3日曜日 ☎ 070-1536-5192 (岩洞) 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 小豆野町子どもの遊び場プレイパーク ▶ みどりの村 (村の広場) ● 不定期 (原則、月に1回 日曜日の10時~14時) ☎ 小豆野町役場こども課 (0494-75-4101) 「小豆野町 プレイパーク」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ くさぽー ▶ 久喜市総合運動公園、子供広場、自由広場、ランド島のらっぱと林 ● 第4土曜日 (8.12月は休み) ☎ 090-8021-5520 (荒井) 「くさぽー」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 森と子育てのつどい ▶ 北本市「てづくりの森」 ▶ 南小通り大村庵横 (北本市北本宿 158) 他 ● 第2日曜日 SNS「モリトコ」で検索 	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ おちかくプレイパーク ▶ 鶴ヶ島市内公園各所 ● 第3土曜日 ☎ 090-5197-0039 (木部) 活動休止中 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほんきっこ ▶ 狭山台中央公園 (狭山市狭山台 3-28) ● 第2土・日曜日 他 (夏休みは連続5日間) ☎ 04-2955-5737 (正能) 「ほんきっこ」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ いるはプレイパーク ▶ 志木市いるは親水公園 (志木市中京岡 5-2-57) ● 偶数月の第1土曜日 ☎ 048-456-5070 (いるは親水公園パークセンター) 「いるはプレイパーク」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ ソトブレ ▶ 新産市児童センター ▶ 福祉の里児童センター ▶ 他市内公園 ☎ 詳しくは上記児童センターHPへ 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ いるばーく ▶ 青少年活動センター、他 ● 基本第3土曜日、変更有 ✉ irumaplaypark@gmail.com 	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ わこうプレイパーク ▶ 市内公園 ● 不定期 ✉ info@wa-kosodate.com 「わこう子育てネットワーク」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 遠瀬プレイパーク ▶ 彩湖・遠瀬グリーンパーク ☆ ちびっこぼうけんひろば ▶ 児童センターこどもの国 ✉ todaasobiba@yahoo.co.jp 「戸田遊び場・遊ぼう会」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 戸田遊び場・遊ぼう会 ▶ 市内公園 ● 不定期 ☎ 048-456-5070 (いるは親水公園パークセンター) 「いるはプレイパーク」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ どんごこの王様 ▶ 富士見公園 (蕨市鶴岡 2) ● 第3土曜、第2火曜日ほか ✉ doronkonousama@gmail.com 「どんごこの王様」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 冒険松原あそび場 ▶ (草加市松江 1-1-23) ● 木~月曜日 (週5日) ☎ 048-935-7383 各種SNSあり「冒険松原あそび場」で検索 	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 別所沼プレイパーク ▶ 別所沼公園・芝山エリア ● 毎週木曜、第2・4土曜日 ☎ 050-6871-9625 (田中) 「あそびの森プレイパーク」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 大宮プレイパーク・ねっこ会 ▶ 大宮第三公園プレイパーク ● 不定期 (HPに開催日掲載) ✉ oomiyaplaypark@yahoo.co.jp 「ねっこ会」で検索 ☎ 050-6867-7668 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 冒険はらっぱプレイパーク ▶ さいたま市子ども家庭総合センター「あいはれっと」屋外 ● 月・火・木・金・日・祝 (第2金曜休み) 10時~17時 (冬季は16時) 「冒険はらっぱ」で検索 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ こびと東大宮 3丁目 ▶ 東大宮ふれあい広場 ● 毎月第3水曜日 (9:30~12:00) ✉ kobito3chome@gmail.com 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ プレイパーク・おそと遊び隊 ▶ 市内公園 ● HPに開催日掲載 ✉ yoshikawa.kosodate@gmail.com ☎ 048-983-5267 「よしかわ子育てネットワーク」で検索 	

「たねの会」の歩み

当会は、2003年より、プレーパークを地域につくり、広げる活動を続けています。2018年からはさいたま市より委託を受け、さいたま市子ども家庭総合センターで「冒険はらっぱ」という常設のプレーパークを運営しています。

- 2003年 発起人2人が出会い、任意団体「さいたま冒険遊び・たねの会」発足
- 2004～2005年 「ミニプレーパーク」を市内の公園やキャンプ場などで開催
- 2006年 「さいたま冒険遊び場・たねの会」に改名
『冒険遊び場づくり講習会』開催（冒険遊び場 2 days in 別所沼公園開催）
- 2007年 「別所沼プレーパーク」定期開催スタート（月1回・自主開催）
- 2009年 『子どもに関わる仕事をめざす若者のための体験講座』開催（全3回）
「さいたま市市民提案型協働モデル事業」
～協働による冒険遊び場づくりモデル事業」受託
- 2010年 別所沼プレーパークがさいたま市の委託事業となる（月2回）
『広がれ！冒険遊び場づくり事業』開始（岩槻区、大宮区、緑区で展開）
- 2012年 「さいたま冒険遊び場・たねの会 大宮プレーパーク実行委員会」発足
- 2015年 活動の広がりにより、活動場所ごとに会を分けることに決定（移行期間1年）
- 2016年 「さいたま冒険遊び場・たねの会」から「あそびの森」「大宮プレーパーク・ねっこの会」がそれぞれ独立
「特定非営利活動法人たねの会」設立
- 2018年 「冒険はらっぱ運営業務」受託



本事業の概要

昨年度の成果と課題をふまえ、以下の内容で実施しました。

『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！2年目』

(1)座談会の開催

各地域(3ヶ所)の施設等に出向き、遊び場+座談会を開いて、協力・参加をあおぐ
(子育て支援センター、児童センター、自治会館等)

(2)移動型プレイパークの開催

第2水曜日：番場公園 / 第4水曜日：岩槻城址公園 / 第3土曜日：プラザ中央公園
昨年度開催した3地域において5回ずつ開催を継続し、のびのび遊べる場づくりを地域の方と一緒にいき、その地域の方に運営主体を引き継いでいけるようにする。

(3)プレイパーク事業検討会の開催（あいぱれっとにて）

プレイパーク事業について理解し、課題について方策を検討していくための会をもうける（行政職員・議員・地域の活動者向け）



(1)座談会の開催

移動型プレイパーク開催にあたり、事前に各地域の施設にプレイワーカーとうかがい、「新聞紙で遊ぼう！」をしながら、開催の周知をさせていただきました。

広報や開催にもご協力いただき、各地域の施設や団体の方々との連携もはかることができました。みなさま、ありがとうございました。

座談会【プラザ中央自治会館にて】



7/15(土) 10時半～12時

参加：自治会長・民生委員
PTA会長・PTA役員さん等

座談会（新聞紙で遊ぼう！）【岩槻児童センターにて】



6/28(水) 10時半～12時
参加：親子12組

座談会（新聞紙で遊ぼう！）【子育て支援センターきたにて】



7/20(木) 10時半～11時
参加：親子17組

(2)移動型プレイパークの開催

「プレイパークの活動がない地域にも、遊び場づくりのたねまきを」と、3ヶ所×5回の開催を行いました。

令和5年度さいたまマッピングファンド助成金一般助成事業

昨年ほど同じ公園で開催!

移動型プレイパークであそぼう! 2年目



工作・お絵描き・音遊び・ロープ道具づくりなど
申込み・参加費なしで誰でも遊べます♪

さまざまな遊び道具と一緒にプレイワーカーがおじゃまします。子どもたちや地域のみなさんの「やってみたい!」遊びができるように一緒に遊び場をつくっていき活動です。乳幼児からシニアの方までぜひおこしくください!

🌸 番場公園 (さいたま市北区)	🌸 プラザ中央公園 (さいたま市西区)	🌸 岩槻城址公園 (さいたま市岩槻区)
8/9, 9/13, 10/11	8/19, 9/16, 10/21	8/23, 9/27, 10/25
11/8, 12/13 (第2水曜日)	11/18, 12/16 (第3土曜日)	11/22, 12/27 (第4水曜日)
10~13時	11~15時	10~13時

※少人数で行く・雨天中止となります(暑さによる中止もあり)。開催情報は「たのめあ」アプリでご確認ください。

主催：特定非営利活動法人たのめあ
「子どもたちがのびのび遊べるまちづくり」をテーマに活動しています。
移動型プレイパークや会についての情報はこちらをご覧ください
問合せ・連絡先メール：info@tanenokai.or.jp 電話：090-7179-5436(夜経)



地域のみなさまへ 移動型プレイパーク 私たちの思い

私たちは現在、さいたま市子ども家庭総合センター「あいざわと」において「冒険はらっぱ」という常設型のプレイパークをさいたま市より委託を受け運営しています。

そこでは普段子どもたちが体験することのできなくなった遊び(穴掘りや木登り、木工や水遊びなど)や「やってみたい!」と思う遊びを、子どもたち自身が考えてできる環境をつくっています。

しかし、子どもたちにとって遊びは日常のものでもあり、それぞれの身近な場所に、発見や挑戦ができる環境があることが望ましいのではないかと考えています。そこで考えたのがこの「移動型プレイパーク」です。

遊び場づくりの専門職である「プレイワーカー」が様々な遊び道具をもって地域を訪れ、その地域の方々と一緒に遊び場をつくっていく。遊びを通して地域の方々がつながる機会を創出する。みんなで子どもの環境、地域のつながりについて考えていくことが、子どもたちが健やかに育っていく環境や、誰もがより安心して暮らすことのできるまちづくりにつながっていくのではないかと考えています。

そんな思いから、昨年度に引き続き、さいたま市と協働でこの事業を開催させていただきます。乳幼児~中高生、保護者の方、地域の方もぜひご参加いただき、ご感想など寄せていただけたら嬉しいです。運営スタッフも募集中です。どうぞよろしくお願いいたします。

ご心配なことがあればスタッフにお声がけいただくか私たちまでお問合せください
 <特定非営利活動法人たのめあ> <https://www.tanenokai.or.jp>
 メール：info@tanenokai.or.jp 電話：090-7179-5436(夜経)



※「移動型プレイパーク」は近年、日本で増えてきた形態のプレイパークです。1つの場所でだけでなく、様々な場所に出張して遊び場を開く活動が増えていきます。日本冒険遊び場づくり協会では2021年『はじめよう! プレイパークで広がる遊び場づくり』を発行。翌年にはプレイパークに詰め込む遊びの道具や素材=プレイキットを紹介するサイトがオープンされています。また、『移動式あそび場全国ネットワーク』も2021年に発足し、現在、移動型の遊び場づくりが全国に広がっています。

①北区・番場公園

昨年度に引き続き、北区の番場公園では、水曜日の午前中に開催しました。

令和5年度マッチングファンド一般助成事業 『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう2年目』

①移動型プレイパークの開催（北区・番場公園）・・・乳幼児親子対象（水曜10～13時）

【参加者数】



	天気	乳幼児	小学生	中高生	大人	合計
8/9	晴れ	10	1	0	8	19
9/18	晴れ	60	0	0	40	100
10/11	晴れ	47	0	0	39	86
11/8	晴れ	47	0	0	34	81
12/13	晴れ	25	0	0	23	48
合計		189	1	0	144	334

昨年度と同じ開催時間帯で行ったが、参加者数が229名から334名へと増加した。普段、利用者の少ない公園が、たくさんの親子連れでにぎわい、親子共に楽しむ姿が見られた。積極的に手伝ってくれる保護者も増えた。

移動型プレイパーク開催報告

令和5年9月13日(水) 10:00~13:00	天気	晴れ	場所	番場公園
スタッフ	萩野、小田	来訪者		
来園者数	乳幼児 60名	小学生 0名	中学生 0名	大人 40名
				合計 100名
<事前MTG>				
<ul style="list-style-type: none"> ・気流が高く、遊具付近の草はポーポーに生えているため、奥の小山になっている日陰で展開。水遊びもできるように準備する。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・10時から続々と参加する親子が来てくれた。市報やたねの会のInstagramを見た方、7月の支援センターさたでのイベントに参加していた方、去年遊びに来ていた方など、多くの人がプレイパークを目指して来てくれた。1年ぶりに会う親子もおり、再会を喜び合った。 ・0歳~3歳くらいまでの子がほとんどで、お昼ご飯を持ってくる子は少なかった。12時前には帰宅する人が多く、「次回はお昼持ってきます」と言う方も数組いた。中にはお昼を食べずに、ずっと遊びこんでいる子もいた。 ・暑かったので、山の上にシートと散水ホースを設置し、水遊びができるようにした。真っ先に水を浴びに行く子がいたり、歩けない子もお母さんの抱っこで水に触ったりしていた。「大人も気持ちがいいですね」と保護者も水に触り、一緒に楽しんでた。 ・予想以上にたくさんの参加者が来てくれたので、様子を見ながらお陰かきを広げたり、タイヤブランコを設置したりと、展開していった。スタートから11時くらいまでが一番人数が多く、どの遊びにもぎわっていた。12時を過ぎると人数は少なくなり、ボールを転がしたり水風船を割ったり、気に入った遊びをじっくりとやっていた。 ・どんぐりが落ちていたので、拾いに行った。「どんぐりだー」と子どもにも保護者にも声をかけられ、一緒に拾ったりあそこにあったよーと案内したりした。緑のどんぐりも多く、今の時期だけのどんぐりをかっぴいねーと話しながら、一緒に拾った。桶に転がしたり、ままごとに使ったり、持って帰ったりしていた。 				
<ヒヤリハット・けが>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ハチが飛んでいたのと、水道近くに毛虫が何匹も落ちていた。参加者に注意喚起をし、気を付け合うようにした。 				
<苦情や意見・対応したこと>				
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 				
<次回にむけて>				
<ul style="list-style-type: none"> ・購入したいもの：絵の具、洗濯のり、PPロープ、ビー玉、ボスカ、ビーズ、ボンド、テグス、モール ・草と暑さが落ち蓄いたら、遊具付近で開催するか検討する。 				

<写真>



奥の小山の日陰を中心に展開



0歳や1歳の小さい子たちもたくさん来てくれました



水風船を投げて割ることに夢中。



ボールコロコロは毎回大人気



ロープでつくったタイヤブランコでぶらーん。



虫入ったかなー？

移動型プレイパーク開催報告

令和5年11月8日(水) 10:00~13:00	天気	晴れ	場所	番場公園
スタッフ	荻野・小田	来訪者	さいたま市議会議員 相川綾香さん	
来園者数	乳幼児 47名 小学生 0名 中学生 0名 大人 34名	合計 81名		
<p>《事前 MTG》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候も良く、多くの人に来ることが予想されるので、遊具の横のゾーンに広めに展開する。 ・ 来年度に向けて、一緒に活動をしていけそうな人に声をかける。 <p>・ 先月より出だしはゆっくりだったが、だんだんと人が増え、一時は同時に 50 人以上の人がいるほどにぎわった。お散歩に来ていた保育園（クレヨン保育園）の方に声をかけると、プレイパークに混ざって一緒に遊んでいった。これまで番場公園にお散歩に来る園はいくつかあり、毎回声をかけていたが、一緒に遊んでいた保育園は初めてだった（以前、放課後デイサービスは遊んでいたことがある）。リピーターに加え、口コミで知った人、市報を見て初めての人、偶然の人、というんな人が混ざっていた。前回より遊ぶ時間が長く、昼を過ぎても残る人が以前より多かった。</p> <p>・ ブルーシートにロール紙を貼っての絵の具遊びが人気で、徐々に紙を増やして広げた。「家ではできないからうれしい」という保護者の声があったり、絵の具に初めて触れる子どもも何人もいた。外でみんななどできるという環境によって、家ではハードルの高い遊びにも子どもたちが挑戦できることを感じる。紙に描くだけではなく、水入れの中に絵の具を出して、混ぜて色水をつくるなど、子どもの興味の赴くままに遊びが展開している。最初は保護者の方も「これはしていいのかな？」「絵を描く場所じゃないのかな？」といった戸惑いを感じることもある。その時には声をかけたり子どもと一緒に遊んだりして、色水をつくったり好きなだけ絵の具を出してみたりと何をしてもいいとわかると、次第にのんびりと見守ってくれる雰囲気になっていく。</p> <p>・ さいたま市議会議員の相川綾香さんに来て、荻野が対応した。西区にプレイパークをつくりたいという保護者の方も来て、一緒に話をした。プレイパークをつくりたい方々がつながりながら、動いていけるようにしていきたい。</p>				
<p>《ヒヤリハット・けが》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがはなし ・ タイヤに PP ロープをつけたものを遊具に持って行った子がいた。保護者がよく見てくれて、周りの子にも声をかけながら遊んでいたのが今回は怪我はなかったが、遊具に持っていく時には気づけるようにしたい。 				
<p>《苦情や意見・対応したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 				
<p>《次回にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0 歳の子を抱っこしたまま、上の子と遊ぶ保護者が何人かいた。自由に動いたり、いろいろなものを見たり触ったりすることも赤ちゃんにとっては遊びなので、可能なら下の子も抱っこ紐から降りられたらと思う。声はかけているがブルーシートはハードルが高いかもしれないので、次回はブランケットを持参し、やりやすい環境をつくりたい。 				
<p>《連絡事項・その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 				

《写真》



気候もよく、多くの人でにぎわった。



どんぐりもたくさん！拾うことが楽しい。



段ボールにもお絵かきしたり、隠れて「ぼあ」したり。



毛糸やモールでは自由で素敵な作品ができる。



小さな土のスペースを少し掘り起こし、土のケーキづくり。



子どもたちは遊びながら、お母さんたちの交流も広がる。

②西区・プラザ中央公園

西区のプラザ中央公園では、地域の方からのご提案により、水曜日から土曜日に変えて開催しました。

令和5年度マッチングファンド一般助成事業 『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう2年目』

②移動型プレイパークの開催（西区・プラザ中央公園）・・・家族連れ対象（土曜11～15時）※変更



【参加者数】

	天気	乳幼児	小学生	中高生	大人	合計
8/19	晴れ	20	15		23	58
9/16	晴れ	20	20		30	70
10/21	晴れ	32	29	5	35	101
11/18	晴れ	29	23	1	31	84
12/16	晴れ	35	28		33	96
合計		136	115	7	152	410

地域の大人に知ってもら（手伝ってもら）ためには土曜日開催の方がよいのでは、とのご意見もあり、水曜日の放課後から土曜日に開催日を変えて開催。自治会長、PTA会長、民生委員の方をはじめ、たくさんの大人の方が訪れ、一緒に場をつくってくださった。（※12月のみ火の使用も試行した）

移動型プレイパーク開催報告

令和5年10月21日(土)11:00~15:00	天気	晴れ	場所	プラザ中央公園
スタッフ	佐藤、荻野、小田	来訪者	大学生の卒論調査	
来園者数	乳幼児 32名 小学生 29名 中学生 5名 大人 35名	合計 101名		
《事前 MTG》				
・ 気候がよく、多くの人に来るかもしれないので、様子を見ながら遊びを展開していく。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ スタートから、乳幼児親子、小学生も遊びに来て、にぎわった。自治会の会議を公園のベンチでやってくださり、自治会長さんはじめ他の方も様子を見てくださった。今回も民生委員さんが来てくださり、子どもたちと一緒に工作をして遊んでくださった。 ・ 過ごしやすい気候で、どんぐりも落ちていて、ポンドでの工作が盛り上がった。木や枝にビーズやモール、ボンボン、どんぐりなどをつけて、思い思いに素敵なのができていた。木工も変わらず人気で、たくさんの作品ができていた。つくった椅子を大事そうに持ち帰る子もいた。 ・ ロープを木にかけてのぼろうとしたり、ぶら下がってみたり、試行錯誤して結んだりしていた。プレイワーカーがつくる玩具だけではなく、子どもたちが自由にやってみる雰囲気がつくられてきているのを感じる。安全面は気にしながら、子どもたちの創意工夫を見守りたい。 ・ 大きい段ボールで家のようなものができ、中で将棋をしたり、入ってみたりと楽しんでいた。狭くて秘密基地のような雰囲気、のぞくだけでもワクワクした顔をしていた。 ・ 公園の中心部分は、あえて物を出さずに空けている。この日も、綱引きが始まったり、サッカーをしたり、台車で走り回ったりと、広々と遊びが展開された。活発に動いて遊ぶ子どもも多く、土曜日でも放課後のような雰囲気があって、とてもいいなと感じた。 ・ 自分のペーゴマを持ってきている小学生がいて、一緒にペーゴマをした。やっているのと、何人が集まってきた、初めての子に教えたり、一緒に勝負したりと、輪が広がった。子どもの時ぶりにコマをやるというお父さんもいて、大人が遊ぶ姿があるのもとてもよかった。 ・ 何度も来て顔なじみの人も増えている。最後まで遊んで、片付けを一緒にやってくれる方もたくさんいて、あっという間に片付いた。こういうところから少しずつ、みんなで作る遊び場にしていきたい。 				
《ヒヤリハット・けが》				
<ul style="list-style-type: none"> ・ けが：トンカチで手を打って、血豆ができる。 ・ ヒヤリハット：小学生が台車で走っているところに、小さい子が濡ざりたくてついてきて、転倒。けがなし。 				
《苦情や意見・対応したこと》				
・ 特になし。				
《次回にむけて》				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 来月たき火ができることになれば、たき火の道具を用意する。火の使用許可を得ている旨を伝える掲示物を作成する。ブロックは自治会のものを貸していただける。 				
《連絡事項・その他》				
・ 特になし。				

《写真》



ボールコロコロ。子どもたちの発想で、コースは変化する。



2つのおうち。入ったり、のぞいたり。



思い思いに工作。



毎回子どもたちと楽しそうに遊んでくださる民生委員さん。



かけるところも結び方も工夫しながら。



突然始まる綱引き。子ども VS 大人。

移動型プレイパーク開催報告

令和5年12月16日(土)11:00~15:00	天気	晴れ	場所	プラザ中央公園
スタッフ	佐藤、佐々木、小田	来訪者		
来園者数	乳幼児 35名 小学生 28名 中学生 0名 大人 33名	合計	96名	
<p>《事前MTG》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラザ中央公園で初めてのたき火の実施。自治会の方たちも準備してきてくれるので、連携しながらやっていく。たき火の場所は、前回検討したように遊具の前あたりの開けた場所で行う。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・12月とは思えない気温の高い日で、ぼかぼかの中のものびりとした遊び場となった。たき火の他にも、工作、ボール転がし、将棋、ままごとなど思い思いの遊びが広がった。この日も自治会の方、民生委員の方、PTA会長さんが来て、一緒に場をつくってくださった。 ・10時過ぎに着いた時点で、自治会の方々がすでに焼き芋の準備を始めてくださっていた。たき火もすぐに始めそうだったが、プレイパークでは子ども自身が火をつけること、その中でいろいろな試行錯誤や経験をすることを大切にしているので、そのことを伝え少し待ってもらおう。プレイパークが始まる頃から、子どもたちがブロックを組み立て、木も組んだ。マッチも子ども自身ですって、火をつけた。なかなか接する機会のないたき火に興味津々の子どもたちは、木を入れたり火ばさみでいじったり、思い思いに楽しんでいた。用意してくれていたさつまいもでの焼き芋はおいしく焼き上がり、みんなで食べることで和やかな雰囲気広がっていた。 ・プレイワーカーが段ボールで家をつくって、絵の具で色を塗っていると、子どもたちも色を塗り始めた。だんだんと家の中にテーブルやテレビもつくられた。最終的に、「おいも」と看板がつくられ、おいも屋さん！カウンターにたき火で焼いた焼き芋を並べ、お客さんも来て、楽しい遊びが広がっていた。 ・「ブランコをつくりたい！」と子どもたち自身で木にロープをかけ始める。どうやったらかかるかな？と投げを試みたり、台を持ってきてみたり、長い棒をつかってその先にロープをつけてみたり、いろいろ試す。なかなかうまくはいかないけれど、楽しそうにやっている。さらに「こっちにやってみよう！」と他の木と木の間にロープを渡してみる。1本のロープに、ぶら下がったり、ブランコをつけたり、名もない遊具ができあがり、いろいろなが遊んでいた。 				
<p>《ヒヤリハット・けが》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生数名が石をトンカチで砕いていて、友達のとんカチが指にあたる。保冷剤で冷やす。 ・散歩に来ていた犬が、遊びに来ていて関わった子どもを噛む。出血はせず、内出血のみ。水道で洗い、冷やす。飼主と子どものお父さんで、何かあった時のために連絡先を交換する。 				
<p>《苦情や意見・対応したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 				
<p>《次回に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も継続したい意向が自治会の方々にあるので、どのような形でやっていけるか検討していく。 				

《写真》



ブロックも木も子どもたちが組んで、子どもがマッチで火をつける。見慣れないたき火に、楽しそうにいろいろ実験。おいしい焼き芋ができました。



段ボールでつくったおうち。「おいも屋さん」に。

ぼかぼか陽気で、のんびり遊ぶ。



工作では、季節に合ったものもできていました。

ロープで自分たちで遊具をつくる。どこにかける？どうやってかける？試行錯誤がいっぱい。

③岩槻区・岩槻城址公園

岩槻区の岩槻城址公園は、乳幼児親子のニーズが多かったことから、土曜日から水曜日に変えて行いました。

令和5年度マッチングファンド一般助成事業 『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう2年目』

③移動型プレイパークの開催（岩槻区・岩槻城址公園）・・・乳幼児親子対象（水曜10～13時）※時間変更

【参加者数】



	天気	乳幼児	小学生	中高生	大人	合計
8/23	晴れ	20	3	0	20	43
9/27	晴れ	39	4	2	34	79
10/25	晴れ	32	4	1	27	64
11/22	晴れ	31	2	1	30	64
12/27	晴れ	29	13	0	23	65
合計		151	26	4	134	315

昨年度、土曜日に開催していたが、乳幼児親子を対象とした平日の午前中に開催日を変えて実施。この日をめがけて訪れる親子が多く、プレイパークを開催したい、何かできることがあれば、という方も現れている。

移動型プレイパーク開催報告

令和5年9月27日(水) 10:00~13:00	天気	晴れ	場所	岩槻城址公園
スタッフ	萩野、小田	来訪者		
来園者数	乳幼児 39名	小学生 4名	中高生 2名	大人 34名
合計 79名				
<p>《事前 MTG》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は第3駐車場近くの場所で開催していたが、この日はスズメバチが飛んでいたため、ハチの行動範囲から離れて遊具の方に少し近づいた場で開催することにした。 ・たねの会が9月から始めたフリースクールくるーずの子たちが遊びに来ることを聞いていたので、小中学生も楽しめるような場づくりを意識する。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・前回に引き続き来てくれた親子、岩槻児童センターでの座談会に参加していた親子、市報を見て、など乳幼児親子が続々と遊びに来て、にぎやかな開催になった。 ・フリースクールくるーずの子たちが来ると、早速ロープを木にかけて木登りをしたり、ブランコをつかってダイナミックに遊び始めた。ロープをかけての木登りは、中学生の子がすぐさまのぼり、小学生の子もそれに続きたくて、チャレンジしていた。ブランコは、ロープを引っ張ることでも大きく揺れるつくりで、その激しい揺れにとっても楽しそうにしていた。くるーずの子たちが来るようになっていたので、今回は木工の準備もした。木を切ったり、組み合わせたり、木に撞いたりして、じっくりと創作も行われていた。 ・くるーずの子たちが来ることで、乳幼児親子と小中学生と一緒に過ごすことができた。小さい子たちも大きい子たちの遊びをじっと見ていたり、小学生が幼児の乗る台車を押したりと、交流も生まれていた。平日昼間の開催は、ほとんどの参加者が乳幼児親子になりがちだが、昼間を学校以外の場所で過ごすことを選択する子たちにとっても来やすい場所になれたらと思う。くるーずの子たちと一緒に場をつくり、小中学生たちも居心地がいい場所を模索していきたい。 ・乳幼児親子は、ボール転がし、絵の具、段ボールのおうちづくりなどが盛り上がっていた。興味が向くままに様々なことをやってみる子どもたちと、それを見守る保護者たちで、和やかな雰囲気の中で遊んでいた。 ・片付けの前に、参加者がいる段階でみんなで振り返りを行った。参加者の人たちの楽しかったことや今後してみたいことなどを聞き合うことができるので、これからも継続していきたい。 				
<p>《ヒヤリハット・けが》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハチが飛んでいることを伝え、参加者自身にも気を付けてもらえるように声掛けをした。 				
<p>《苦情や意見・対応したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 				
<p>《次回にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来月はハチがいなかったら、開催場所を検討する。 				

《写真》



スズメバチがいたので、この木の周りで開催。



乳幼児親子がたくさん来てくれました。



外だとダイナミックにできる絵の具が人気。



「くるーず」の表札づくり。



木の上にひょいっとのぼる中学生。



チャレンジする小学生。

移動型プレイパーク開催報告

令和5年11月22日(水)10:00~13:00	天気	晴れ	場所	岩槻城址公園
スタッフ	荻野、小田	来訪者		
来園者数	乳幼児 31名	小学生 2名	中学生 1名	大人 30名
				合計 64名
<p>《事前MTG》</p> <ul style="list-style-type: none"> ここまで3回やってきて、遊びに来る人はプレイパークが持参した道具を一通り遊び楽しんでいるが、もう少し混ざり合うような環境がくれたらと思う。様子を見ながら、できそうだったら混ざり合っただけ参加できるような遊びを提案できるといいのでは。 				
<ul style="list-style-type: none"> 今回も、リピーターの人も初めての人も遊びに来た。日影は肌寒いが、日なたはぼかぼかとあたたかい陽気の中、のんびりと和やかな雰囲気での遊びが広がっていた。 この日もフリースクールくるーずのメンバーが来た。来ると早速、恒例となっているロープのブランコをつけたいと言うので、一緒に取り付ける。プレイワーカーが小さい子向けのタイヤブランコをつくっていたら、前回ロープでお尻が落ちないように座面をつくってくれた小学生の子が、それを思い出して今回も一緒にやってくれた。今回はタイヤにロープをぐるぐる巻いて試してみてもうまくいかず、木をタイヤの間に差し込んでやってみた。できあがると、小さい子に乗ることをすすめている姿もあった。大きい子と小さい子の交流も生まれている。 「段ボールで遊びたい」と伝えてくれた子がいたので、佐藤が段ボールを調達してきた。プレイワーカーと一緒に段ボールで電車をつくったり、積み重ねて崩して遊んだり、周りの子と一緒に遊びが広がっていた。 土やどんぐりでそのままとても人気で、ぼかぼかとあたたかかったからか水を使っている子も多かった。プレイワーカーが雨どいをつなぎ、水を流して泥をつくると、泥ケーキや川づくりにもなっていた。 シートに広く紙を貼って絵の具を出すと、どんどん子どもが集まってきた。初めて絵の具をする子もいて、思い思いに筆を動かして描いていた。保護者たちも、絵の具を貸し合いながらお皿に出して、子どもの様子を楽しんでいた。 12時頃には乳幼児親子はみんな帰り、フリースクールくるーずメンバーだけとなった。お昼ご飯を持ってきている親子はおらず、お昼ご飯のタイミングで帰ることが多い。 				
<p>《ヒヤリハット・けが》</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 				
<p>《苦情や意見・対応したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 				
<p>《次回にむけて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、運営メンバーを募集する声掛けをする。来年度以降のやり方を検討していく。 来月は冬休みの開催のため、小学生も来るかもしれない。合わせた道具を用意する。 				
<p>《連絡事項・その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 				

《写真》



シャボン玉もいつも人気。



紙と絵の具を出すと、続々と親子が集まってきた。



雨どいに水をお玉でジャージャー。



ブランコにチャレンジ。



台車の上に段ボールを乗せて、2人ですっばり。公園のいろいろなところで連れてってもらう。



中学生とプレイワーカーでバドミントン。

(3)プレイパーク事業検討会

行政職員の方、地域でご協力いただいた方、11名のご参加があり、本事業の報告の後、各自からのご感想や今後についてのご意見をいただきました。

＜感想・ご意見＞

- 普段、遊んでいる子が少ない公園だったが、こんなにたくさんの子どもたちが出てきてのびのび遊んでいることがとてもよかった。
- コロナ禍で大人の交流の場の減っていたが、親同士の交流の場にもなっていてよかった。PTAやおやじの会とのマッチングもできるのでは。市のバックアップも期待したい。
- 子どもたちが遊んでいることで高齢者の方もきてくれて、子どもとの関りを楽しんでいた。
- 市内にもっとプレイパークが広がっていくとよい。
- 学校に行かない子どもたちの居場所としての機能もあると知った。
- 公園をつかってもらうためのしくみづくりが必要。
- 育児支援としてのプレイパークについて検討をしていく必要があるのでは。
- 他市の事例を参考に、さいたま市独自のしくみづくりや取り組みも考えたい。



令和5年度さいたまマッチングファンド一般助成事業

プレイパーク事業検討会

今年度2年目となる「移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくらう！」事業。これまで3ヶ所10回ずつのプレイパーク開催が終了しました。この会はそのご報告とともに、子どもたちが地域でのびのびと遊び育つことのできる環境づくり・しくみづくり、それを支える協働のありかたについて、これまでの実践やみなさまのご意見・ご感想から検討していく場となります。ぜひご参加ください。

報告：村田 俊さん
早川 七海さん

フリーランスのプレイワーカー。本事業の移動型プレイパークに1年目から関わり、地域の方とともに遊び場づくりを行ってきた。

進行：佐藤 美和

特定非営利活動法人たねの会 代表理事

令和6年2月1日(木)
13:30～15:00

あいばれっとオープスタジオ
さいたま市浦和区上木崎4-4-10
(JR与野駅下車徒歩7分)

こちらからお申込みができます⇒



主催・お申込み・お問合せ : 特定非営利活動法人たねの会
Mail: Info@tanenokai.org TEL: 090-7179-5436 (佐藤)

《参考》昨年度のアンケート結果

令和4年度マッチングファンド一般助成事業 『移動型プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう』

【参加者総数】乳幼児:446名 小学生:332名 中高生:5名 大人:462名 合計:1255名

「このような遊び場が必要だと思うか」

どちらともいえない
1.9%

親子だけで子どもを開放的に遊ばせるのは限界がある。見守ってくれる人や他の親子と一緒に普段できないようなことができる遊び場が近くにあるのはとてもありがたい。
(3歳・7歳・10歳母)

楽しいから!! (9歳男児)

孤育を減らすことにつながり安心して子育てができるから。
(7歳・11歳母)

地域の人とふれあう場、学校・家庭以外の居場所が必要。(50代女性)

子どもたちの楽しそうな声がたくさん聞こえていて大人も嬉しそうでした。
(1歳・6歳母)

子どもが大人の苦情から解放されて遊べる場所が少なくなっていると思うので。
(60代男性)

普段関われないお友達とも会えますし、親同士もよいコミュニケーションになると思うので。(4歳父)

「どちらともいえない」(2名)理由
・近くにあるから
・射的がすこしあぶないから(小学生高学年)

必要だと思う
98.1%

「必要だと思わない」は0

回答112名

《参考》昨年度の検討会で紹介した他市の事例

②先進事例から学ぶ プレイパーク事業検討会

令和5年1月23日(月) 10~12時 @あいぱれっとオープンスタジオ

H本冒険遊び場づくり協会代表の関戸さんより、他市の先進事例についてお話しいただきました。

冒険遊び場づくり事業

- ▶ 2012年：朝霞の森のオープンを機に市の委託事業化
(2021年次は年63日間の開催で10,562人の参加実績)
- ▶ 2020年：第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画に
子どもの健全な成長を支える居場所づくりの一つとして
「冒険遊び場づくり(プレーパーク)事業」の記
載(根拠法は次世代育成支援対策推進法)

行政課題とのリンク

第5次朝霞市総合計画後期基本計画(令和3年3月発行)

第5章：都市基盤・産業振興
03：緑・景観・環境共生
2：うるおいのある生活環境づくり

現状と課題：公園、緑地、道路など公共空間へのニーズの多様化に
対し柔軟な対応が求められています。特に子どもの外遊び空間の充
実について取り組む必要があります。

③みどり空間の魅力向上：子どもの外遊び場の充実を目指し、移動
プレーパーク等のモデル事業の実施に取り組みます。公園の魅力
を伝え、機能が効果的に発揮できるように景観と調和した親しみのも
てる分かりやすい公園サインの検討を進めます。

埼玉県朝霞市の移動プレーパーク

NPO法人あさかプレーパークの会では、2020年：第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画に子どもの健全な成長を支える居場所づくりの一つとして「冒険遊び場づくり(プレーパーク)事業」が記載され、事業化されたとのこと(根拠法は次世代育成支援対策推進法)。年20回の開催で、1617名の参加があった。

令和3年3月発行の第5次朝霞市総合計画後期基本計画>第5章：都市基盤・産業振興>03：緑・景観・環境共生>2：うるおいのある生活環境づくり>③みどり空間の魅力向上の中においても、「子どもの外遊び場の充実を目指し、移動プレーパーク等のモデル事業の実施に取り組みます」とうたわれており、行政課題として位置づけられることで事業化が進んだことをご説明いただきました。

実施主体:

横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(YPC)

- 2002年発足
- 基本理念「子どもたちが野外でのびのびと遊べる環境をつくっていくこと」
- YPCは中間支援組織としてプレイパークを開催する各団体（市内17区で25カ所）と連携、プレイリーダーの雇用や養成を担っている

行政との関わり

事業名	所管部署	補助金種別	支援内容
プレイパーク支援	環境創造局 公園緑地維持課	プレイパーク 運営支援事業	施設の整備
			活動団体支援
			新規立ち上げ支援
	こども青少年局 放課後児童育成課	プレイパーク支援事業 補助金交付要綱	コーディネーター派遣 プレイリーダーの 養成・配置

神奈川県横浜市のプレイパーク事業

横浜市には、2002年に発足した「横浜にプレイパークを創ろうネットワーク（YPC）」という団体がありプレイパークを開催する各団体（市内17区25ヶ所）と連携し、プレイリーダーの雇用や養成をしているとのこと。2006年には環境創造局公園緑地維持課において「プレイパーク運営支援要綱」が策定され、新規立ち上げや活動支援の方策がつけられると、2007年にはこども青少年局放課後児童育成課で「プレイパーク支援事業補助金交付要綱」が策定。プレイリーダーの養成や配置、立ち上げ時のコーディネーター派遣についての整備が進んでいるそうです。

趣旨や責任が明確であること(保険加入)、現状復旧、誰でも無料で自由に参加可能なことなどの条件を満たせば、身近な公園で活動してみたい時の相談や地域との連絡調整、物品（ロープ、ドラム缶、シート、救急セット、工具）の貸し出し、必要なもの（倉庫、掲示板、洗い場など）の設置を支援してくれる体制も整っているとのことでした。

外遊び体験推進事業について(2017~)

- ▶ 外遊びを通じた児童健全育成と地域ぐるみでの子育ての気運を高めるため
- ▶ プレーパーク普及事業「プレーリーダー養成講座」を受講し、修了証を持つ方を3名以上含む団体が、外遊びに関する事業を実施する場合に補助金を交付
- ▶ 年度内に1日開催する場合50,000円、年度内に2日以上開催する場合1日目について50,000円とし、2日目以降、1日開催するごとに10,000円追加（上限は150,000円）

岡山県岡山市のプレーパーク普及事業

岡山市では、2015年から「外遊び」を通じた児童健全育成、地域ぐるみでの子育て支援環境の充実に目指し「プレーパーク普及事業」が展開されています。「プレーリーダー養成講座」として、基礎講座→「事前養成講座プレーパークの開催→事後養成講座」×3か所→全体研修→修了証の発行が行われているそうです。

2017年からは、プレーリーダー養成講座の修了証を持つ方を3名以上含む団体が、外遊びに関する事業を実施する場合に補助金を交付するなどが整備され、プレーパークの普及が進んでいるとのことでした。

今後にむけての提案

2年間の事業を通し、各地域にプレイパークの理解が広がり、今後も継続したい/してほしいという声が多くあがっている。今後の継続に向けては以下の3パターンの方法が考えられるが、引き続き各団体・行政の方々とも相談しながら、継続や広がりに向けて動いていきたい。

A. たねの会主催（民間の助成金等）による開催

B. 各地域住民・団体・組織の方主催による開催

- ① プレーワーカーを呼ばずに
- ② プレーワーカーを呼んで

C. さいたま市の事業としての開催

- ① 新規事業として
- ② 既存事業の枠組みの中で
- ③ プレーパークが開催しやすいしくみづくり
ex) 横浜市プレイパーク支援要綱
岡山市 研修事業





令和5年度マッチングファンド一般助成助成事業
プレーパークでのびのび遊べるまちをつくろう！
2年目 報告書
特定非営利活動法人たねの会

事業収支計算書 (実績)

<収入>

単位:円

区分		算出根拠	金額
収入合計 (A)		(a) + (b)	914,702
自己資金額 (a)		①～⑥の合計 (d) と同額	228,676
団体の自己資金	① 自己資金		228,676
	②		
	③		
費用の徴収	④		
	⑤		
	⑥		
助成金交付申請額 (b) (助成金収入・100万円以内)		(c) と同額	686,026

<支出>

区分		算出根拠	金額
支出合計 (総事業費) (B)		(c) + (d)	914,702
助成対象経費のうち 助成金限度額を 上回らない経費	① 謝金・報酬	プレイワーカー謝金15000円×2名×10回	300,000
	② 謝金・報酬	プレイワーカー謝金18000円×2名×5回	180,000
	③ 謝金・報酬	検討会(1回) 15000円×2名×1回 座談会(3回) 10000円×2名×3回	90,000
	④ 旅費	プレイワーカー・講師交通費	24,884
	⑤ 消耗品費	絵の具、シャボン玉用洗剤、ペン、折り紙・画用紙、テープ類、のり・ボンド、モール・リボン等	63,388
	⑥ 印刷製本費	移動型チラシ、報告会チラシ、報告書、コンビニ決済手数料 総額25,270円のうち助成金充当分	19,564
	⑦ 役務費 (通信運搬費等)	郵送費3か所	1,750
	⑧ 保険料	賠償責任保険5,000円 傷害保険5,000円、振込手数料	6,440
	⑨		
	⑩		
助成金充当経費計 (c)		①～⑩の合計 (b) と同額	686,026
助成対象経費のうち 助成金限度額を 上回る経費	⑪ 印刷製本費	移動型チラシ、報告会チラシ、報告書、コンビニ決済手数料 総額25,270円のうち助成金を上回る分	5,706
	⑫		
助成対象外経費	⑬		
	⑭		
	⑮ 事業に附随して必要な経費 ((c)の10%以内)		
	⑯ 事業に附随して必要な事務局人件費	20,000円×11か月	220,000
	⑰ 事務局交通費		2,970
	⑱		
	⑲		
	⑳		
自己資金充当経費計 (d)		⑩～⑲の合計 (a) と同額	228,676

※(A)=(B)、(a)=(d)、(b)=(c)となるように記入してください。